

# このファイルについて

トロントでは、CAJLEとジャパン・ファウンデーション・トロントとの共催で「日本語学習を継続させる」という集まりを2009年より数か月に一度実施しています。

このファイルは、2014年10月と2015年2月に集まった現職教師たちのグループ作業によってまとめられました。限られた時間での作業でしたので不十分な記述の箇所もありますが、現場の教師たちが試行錯誤で行った教材分析の結果をほかの先生方と共有したいと思います。みなさんがこの教材について知りたいと思われた時の一つの参考資料としてお使いください。

本ファイルには客観的な記述に加え、分析を行った先生方がご自分の経験やお考えに基づいて書かれた意見・感想の箇所があります。あくまで、そう思われる方がいる、という目で読んでいただければ幸いです。このような成果物をみなさまと共有するにあたっては、よい意味でみなさまご自身が批判的に個々の教材をご覧になれるように、その材料を提供するという意図もあります。したがって、書かれた内容そのものに焦点を当てていただくために、分析に携わった方々のお名前はあえて記しておりません。ご質問等ございましたら、[cajle.pr@gmail.com](mailto:cajle.pr@gmail.com)宛てにお送りください。

「日本語学習を継続させる」CAJLE担当 小室リー郁子（2015年3月）

# このファイルの作成に至るまで

- トロント地域で使用されている以下の初級総合教材を分析対象としました。
  - 『げんき 1』 『文化初級日本語』 \* 『みんなの日本語 I』 『Japanese for Busy People I』 『Mirai Stage 1』  
(\* 『文化初級日本語』 は、日本でよく知られた教科書であるにも関わらずトロント地域の学校や教師に知名度が低いことが明らかになったため、あえて今回の分析対象とし、ともに学習することを目的としました。)
- 一種類の教材（教科書）につき、2～3人の教師が担当し分析を行いました。二回の勉強会では、メンバーが入れ替わり、各人が一回目とは異なった教材を担当することになりました。
- 二回の勉強会では、グループごとにこのファイルへの記入を行い、それを用いて全体で発表を行いました。一回目は、教材全体について、二回目は「好きです」を扱っている課について焦点を当てました。このファイルのテンプレートは、この教材分析を企画した担当者が作成しました。
- 具体的に一課分を詳細に見るにあたり、「好きです」が扱われている課を選びました。それは、「好きです」がどの初級教科書においても共通して扱われている項目であり、相互比較が可能であろうと判断したためです。

# MIRAI stage 1 未来 (Japanese Course Book)

Meg Evans/Yoko Masano/Setsuko Taniguchi

1990／2003 (第5版)

Longman

\$40 (2003年現在)

# シリーズ

- Mirai Stage 2: Course Book 2  
Activity Book 2  
Teacher's Book 2
- Mirai Stage 3+4: Course Book 3+4  
Activity Book 3+4  
Teacher's Book 3+4
- Mirai Stage 5: Course Book 5  
Activity Book 5  
Teacher's Book 5
- Mirai Stage 6: Course Book 6  
Activity Book 6  
Teacher's Book 6

# 関連教材

- \* 以下は別売り
- Activity book
- CD
- Teacher's Book

# オンラインリソース

なし

# 表記

- 導入
  - 平仮名：第1課(1～6を通して練習)
  - ローマ字：第6課までひらがなにルビ・カタカナには全課ルビあり。
  - 片仮名：第1課（全課を通して練習）
  - 漢字：第2課（一～十）第6課（日本）第9課（月～日）文化のコーナーで。
- 最初の導入部分で1コマ英語で書いてあるときがある。
- 全課かな表記・英語媒介語
- 英訳なし 説明は英語。

# 対象と目標

- **対象**：小学校高学年～高校生のビギナーを対象
- 日本語について知りたい人
- オーストラリアのカリキュラムに準ずる
- 教室学習用
  
- **ゴール** ゆっくりとしたペースとペアーワークグループワークをへて、自立学習を促す。多様な技能 能力を使つての練習
- **みらい (stage 1)** 「友だち」「学校」「スポーツ・レジャー」の3本のテーマをもとに簡単な会話ができる



# 特徴

- 日本語でのコミュニケーション
- 始めから出来るだけ日本語で教授
- 日本の文化に親しむ（特に学校生活）
  
- 場面設定 学校での様子 柔道教室
- 登場人物 柔道の先生 学生は全員学校で日本語を習っている。
- 柔道場・学校（休憩時間 放課後 学校行事 授業など）

# 全体の構成 1

- 全191ページ（20ページ/課）全ページカラー
- 全9課（3トピック 各トピック3ユニット）
  
- 文法解説：「せつめいコーナー」
- 文化コラム等：「インフォ」各課に写真、英語で説明。
- イラスト：豊富。各課の会話はイラスト入り。
- 写真：日本の紹介、文化・学校の様子。
- 地図・データ等：Stage 1にオーストラリアとの関係（姉妹都市など）の紹介あり。
- 音声：CD
  
- 索引：Vocabulary List（英語－日本語／日本語－英語）

# 全体の構成 2

- 標準的なコースの流れと所要時間

オーストラリアのThe National Profilesに基づく、Proposed time span:

Unit 1~5: 3~4 weeks

Unit 6: 4~5 weeks

Unit 7~9: 3~5 weeks

★週当たりの学習時間数は、学校や地域によって異なる。高校は週2~3時間が多い？

\*カナダ・トロント市・高校クレジットコースで同テキスト使用例：  
週3時間 × 30週（または週6時間 × 15週） = 90時間

Unit 1~5 → 中間試験 → Unit 6~9 → 期末試験

# 各課の構成

1. 会話：イラスト入り
2. 文法：「せつめいコーナー」（文型、表現の説明）  
「Particles」（助詞）  
「わかった」（文型、表現のまとめ）  
「チェックしましょう」（語彙まとめ）
3. 練習：「できますか」（話す、聞く、ゲーム）  
「ひらがな／ひらがなれんしゅう」（書く）

# グループでの気づき & 感想 【全体】

- オーストラリアを題材にした内容が多いので、カナダは？オーストラリアの地図 食べ物 動物が出てくる。
  - カナダと比べながら教えなければならない。
- 文法を系統的に教えていない。例えば形容詞の過去形 否定形は次のレベルで出る。
  - 学生の能力に応じて、過去形などを早く教えても良いと思う。さもないと、自然な会話ができるようにならない。

# 「好きです」の課：第4課

- この課で取り上げる文法

好きなNは何ですか。 例：好きな科目は何ですか。

科目、時間割 例：体育は5時間目と6時間目です。

学年 例：何年生ですか。

- トピックや場面（文脈）

場面：学校、教室

友達や先生と話す

好きな科目について尋ねる／話す

時間割りについて話す

学年を尋ねる／話す

# 「好きです」の課：第4課

- 練習のパターンとタスク

- 語彙：

科目の語彙ビンゴゲーム (Course Book)

ことばのパズル (Activity Book)

ひらがな一書き、読み練習

## 文法と四技能

聞く：聴解練習－会話理解、語彙の聞き取り など。

話す：基本文型でQ&A、時間割について話す など。

読む：手紙文－ペンパル募集

書く：ひらがな練習 (科目名など) など。

# グループでの気づき & 感想 【第4課】

- ・ 「好き」が「～が好きです」ではなく、形容詞の名詞修飾「好きなN」だけで提示されている。
- ・ 1課から4課まで、全て名詞文「～は～です。」
- ・ 学校生活に密着した語彙。